

きんだい ひと  
**近代の人びと**  
めいじじだい  
 (明治時代～)

### 村の移り変わり

けいおう 慶應4年(1868)、江戸は東京と改称され、げんごう 元号も明治に変わりました。

明治4年のはいはんちけん 廃藩置県によって、江戸川区域ははじめて東京府の仲間入りをしました。当時の江戸川区域は、37カ村、人口約2万5000人、4800世帯でした。

明治22年(1889)にしせい 市制・ちようそんせい 町村制が実施されると、江戸川区域の村々も大規模な統合が行われ、まつえ 松江、ふなぼり 船堀、かさい 葛西、みずほ 瑞穂、いちのえ 一之江、ひらい 平井、こまつがわ 小松川、しかもと 鹿本、しのぎき 篠崎、こいわ 小岩の10カ村となりました。

昭和7年(1932)10月にみなみかつしかぐん 南葛飾郡の3町4村が合併し、「江戸川区」が誕生しました。この時の人口は約10万人でした。

### 人びとの生活

江戸川区の村々は、明治以降も米を第一とする農村でしたが、大正に入ると米作りが減りはじめ、れんこん 蓮根作りが次第に増えてきました。畑では野菜や花の栽培も盛んになりました。



蓮根掘り(昭和30年頃)



海苔干し(昭和30年頃)

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
 TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)

また、葛西浦では明治20年代頃から海苔<sup>のり</sup>の養殖が行われるようになり、大正から昭和にかけては貝の養殖・採取が盛んになってきました。

産業面では、明治初期から小規模な工場が建ちはじめ、大正の終わり頃からは小松川を中心として急激に増加しました。

### 公立学校の開校

江戸時代末期、区内各地に寺子屋<sup>てらこや</sup>が開かれ、子どもたちの教育にあたりました。読み書きや算盤<sup>そろばん</sup>を教えています。これらの大半は明治になっても「家塾<sup>かじゅく</sup>」とよばれて続けられました。

明治9年に区内最初の公立学校「葛西学校」が東小松川村の善照寺<sup>ぜんしょうじ</sup>内に開校しました（現在の松江小学校の前身）。



区内初の公立学校が開かれた善照寺

### 太平洋戦争

昭和16年(1941)、日本は太平洋戦争に突入しました。戦争が激しくなるにつれ、東京も空襲されるようになりました。

**学童疎開**：昭和19年(1944)夏、東京空襲にそなえて、都内の小学校3年生以上の学童は集団疎開をしました。江戸川区の学童は、主に山形県に疎開して寺社や旅館で、学習と生活訓練・勤労の生活を送りました。

**東京大空襲**：昭和20年(1945)3月10日東京は江東地区を中心に大空襲を受けました。江戸川区も平井・小松川地区一帯が火の海になり、死者約800名、負



傷者約5800名、全焼家屋は約1万1000戸、罹災者<sup>りさいしゃ</sup>は約4万名にのぼりました。

空襲で焼けた小松川地区(昭和20年)

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)